

# 地域保健

7  
2016

●特集1

保健師が関わる  
地域包括ケア

●特集2

小児慢性特定疾病対策  
を推し進める





〈表紙イラスト〉  
山本まもる

「キラキラビーチ。  
ここはね、楽しい  
けど目がチカチカ  
してくるよ」

6

【特集1】

## 保健師が関わる 地域包括ケア



- 8 【概論】地域包括ケアシステムの構築—保健師への期待 枝光みゆき (厚生労働省老健局振興課)
- 12 【事例1】地域医療ネットワークを中心とした医療介護連携—岡山県備北保健所新見支所 宮崎裕子 (岡山県備北保健所新見支所)
- 20 【事例2】市民と行政の協働でつくる地域包括ケア—浦安市  
《取材協力》森林友佳子さん (浦安市猫実地域包括支援センター)
- 26 【事例3】地域の「強み」を生かした包括ケア—名張市 山崎美穂 (名張市地域包括支援センター)
- 32 【事例4】予防と自立支援に向け、保健師の専門性を生かして—糸島市  
小林智子 (糸島市健康増進部)

38

【特集2】

## 小児慢性特定疾病対策を推し進める

- 40 新しい時代の小児慢性特定疾病対策—小児から成人までの切れ目ない支援に向けて  
《取材協力》横谷 進さん (国立成育医療研究センター)
- 48 小児慢性特定疾病—今求められている支援 及川郁子 (東京家政大学家政学部・短期大学部)
- 54 小児慢性特定疾病患者を支える環境づくり—旭川市の取り組み 山田晴絵 (旭川市子育て支援部)

- 2 ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ! ▶ 奥地明菜さん (新宮市健康長寿課) 東 麻央さん (新宮市保健センター)
- 64 ピープル ▶ 川内 潤さん (NPO 法人となりのかいご代表理事)
- 68 2025年問題に備える～みんなで取り組む「地域づくり」▶ 埼玉県和光市 (後編)
- 78 理解して生かす保健師用語 ▶ アディクション
- 80 REPORT ▶ 平成28年度都医学研公開セミナー
- 90 情報BOX
- 96 次号予告/奥付

### 連載

- 60 Integrated Health のすすめ《第2回》/今 知美
- 62 ESSAY 国際保健《第14回》/松田正己
- 64 保健師のための閑話ケア《第65回》/藤本裕明
- 82 中臣さんの環境衛生ウオッチング《第50回》/中臣昌広
- 86 言葉と発達 いまどき子育てアドバイス《第224回》/中川信子

ひよこ

ホッポ。ステッポ。ジャンプ!



熊野速玉大社にて。奥地さん（左）と東さん（右）

大好きな新宮市民の健康長寿を  
二人三脚で守っていききたい

奥地明菜

さん ● 新宮市健康長寿課

東麻央

さん ● 新宮市保健センター



文：白井美樹（ライター） 写真＝C.Kent



各地で地域包括ケアシステムの整備が進んでいる。保健師は予防や地域全体の健康づくりの視点を持ち込める専門職として、関わりが期待される。そうした中で、介護予防や在宅医療・介護連携などに、保健師ならではの視点を取り入れた好事例が次々と出てきている。

今月の特集1では、保健師らしさを生かした地域包括ケアについて、各地の事例を紹介する。

**P8** 【概論】  
地域包括ケアシステムの構築

—保健師への期待

◎枝光みゆき（厚生労働省老健局振興課）

**P12** 【事例1】  
地域医療ネットワークを中心とした医療介護連携

—岡山県備北保健所新見支所

◎宮崎裕子（岡山県備北保健所新見支所）

**P20** 【事例2】  
市民と行政の協働でつくる地域包括ケア

—浦安市

◎《取材協力》森林友佳子さん（浦安市猫美地域包括支援センター）

**P26** 【事例3】  
地域の“強み”を生かした包括ケア

—名張市

◎山崎美穂（名張市地域包括支援センター）

**P32** 【事例4】  
予防と自立支援に向け、保健師の専門性を生かして

—糸島市

◎小林智子（糸島市健康増進部）



2015（平成27）年、改正児童福祉法が施行され、新しい小児慢性特定疾患対策が始まった。しかし約1年半経過した今も、各自治体の支援体制には温度差があるようだ。医療費助成制度については、乳幼児医療費助成制度があることで本制度を勧めないケースも見受けられる。また自立支援事業についても、患者や家族との間の距離を縮められず、苦心しているところも少なくない。

今回の特集を通して、新しい制度についての理解を深め、小児慢性特定疾患対策を積極的に活用し、さらに前進させていただきたい。

P40

新しい時代の小児慢性特定疾患対策—小児から成人までの切れ目ない支援に向けて  
◎取材協力：横谷進さん（国立成育医療研究センター）

P48

小児慢性特定疾患—今求められている支援  
◎及川郁子（東京家政大学家政学部・短期大学部）

P54

小児慢性特定疾患患者を支える環境づくり—旭川市の取り組み  
◎山田晴絵（旭川市子育て支援部）



小児慢性特定疾患対策  
を推し進める

## 川内潤

さん

●NPO法人となりのかいご代表理事

## 「高齢者虐待を防ぐには、介護離職をしないこと」

高齢者虐待が後を絶たない。その多くは、介護離職によって経済的困窮に陥り、精神的に追い詰められたことで起こる。川内さんは企業でセミナーを開き、「介護離職は親孝行ではない」と訴える。それが虐待をなくす一番の近道なのだという。

●聞き手……編集部

企業に向いて  
介護の話をする

「なぜ、高齢者の虐待防止に取り組むようになったのですか。」

川内 10年くらい前の話ですが、神奈川県にある私の実家では、父が訪問介護サービスを提供する会社を経営していました。母は訪問入浴の看護師でありケアマネジャーだったのですが、元来困っている人を放っておけない性格で、昼夜問わず、頼ってくる人のお世話をしているうちに、仕事とプライベートの線引きができなくなりまし

た。多忙によるストレスからアルコールに逃げるようになってしまい、さまざまな問題行動を起こすようになったのです。

そのとき私は上京して会社勤めをしていましたし、弟2人はまだ学生でしたので、父が1人で母の面倒を見ていました。そのうち、母の状態は日に日に悪化し、お酒を飲んで暴れ、川に飛び込んだり、父の愛車をボコボコにしたりしたそうです。ある日母から「私、死ぬね、ごめんね」と留守番電話が入っていたので、びっくりして実家に飛んで帰ったら、母は痩せて焦燥しきっていました。残念ながら、父から母に對しての暴力、暴言があったようでした。

そのとき、福祉や介護に携わる家なのに、どうしてこんなことになってしまうのだろうと、憤りとともに疑問を持ち始めたのが最初のきっかけです。

その後、私は会社を辞め、父の会社で訪問入浴の仕事を始めました。そこで知ったのは、長く介護を受けている高齢者の中には、かなりの確率で虐待を受けている人がいることでした。

「どのようところで虐待に気付いたのでしょうか。」

川内 私たちは、入浴時に服を脱がせます